

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月4日（火）
部会名	小学校 国語部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

テーマ「単元を通して児童の意欲を高める工夫」

提案概要

1. 実施学年・単元名・単元目標

第3学年・「進行にそって、話し合おう『おすすめの一さつを決めよう』」

- ① 比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知識及び技能（2）イ）
- ② 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思考力、判断力、表現力等（1）オ）
- ③ 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思考力、判断力、表現力等（1）ア）

2. 児童の実態、育成したい資質・能力

「主体的に学ぼうとする児童生徒を育てるための工夫」を柱として、児童生徒の学習意欲を継続させるための手立てについて考えた。今回の、「話すこと・聞くこと」の実践では、児童が「話したくなる」「聞きたくなる」「話し合いたくなる」必然性をつくることの重要性が示された。

学級では、「話を最後まで聞けない」「発言する児童が固定されている」「話すことに苦手意識がある」といった課題があったことから、教科書通りに活動させるのではなく、児童の実態に合わせて授業を構成した。

3. 課題に対する手立て

単元では、1年生におすすめの本を紹介するという目的を設定し、1年生の先生からのビデオレターを活用した。実際の依頼を受けることで、児童は「1年生のために本を選びたい」という目的意識をもち、学習への意欲を高めていった。

付箋、紹介カード、お仕事カード、ホワイトボードシートなど、複数の手立てを活用した。付箋は、自分が推薦したい本とその理由を整理するとともに、友達の考えを見て新たな本に興味をもつきっかけとなった。紹介カードは、複数の候補から一冊に絞る際に、「1年生にとってどの本がよいか」を改めて考えるために用いられた。また、お仕事カードによって司会・記録・時計係などの役割を明確にし、話し合いへの参加を支援した。ホワイトボードシートでは、付箋を分類することで意見の共通点や相違点を視覚的に捉え、合意形成につなげていた。

特に重要なのは、これらの手立てを教師が最初から一方的に与えたのではなく、児童の「こうしたい。」という発言や困り感を捉えたタイミングで提示したことである。例えば、「どうやって一冊に決めればよいか。」「話し合いをするにはどんな役割が必要か。」といった児童の疑問を引き出し、その解決策として付箋やお仕事カードを提示していた。このように、児童の必要感に応じて支援することで、手立てそのものが学習への意欲を高めるものになっていた。

児童の意欲は常に高い状態で維持されるものではなく、学習の途中で低下することを前提として、そのタイミングに応じて新たな手立てを講じた。教師が児童の様子を見取り、必要な場面で支援を

加えることで、意欲を再び高め、主体的な学習へとつなげていた。単元終了後には、1年生への読み聞かせや、第3学年・「おすすめの場所、紹介しよう～新1年生に六会小のみりよくをしょうかいしよう～」の単元で、伝える相手を新1年生に設定して、おすすめの場所を紹介する活動にも発展させ、タブレットで写真を撮ったり、発表動画を作成したりするなど、相手意識を持たせる工夫も行われた。その結果、児童が相手に伝えることを意識しながら、意欲的に活動する姿が見られた。

4. 成果と課題

多様な手立てを準備するための時間や労力が課題として挙げられた。今後は、児童の実態を的確に把握し、必要な支援を必要なタイミングで提示することが大切だという思いをもった。今回の実践から、主体的な学びを生み出すためには、単に楽しい活動を用意するのではなく、児童が「なぜ学ぶのか」「誰のために学ぶのか」を実感できる目的と、学習状況に応じた適切な支援を組み合わせることが重要だと分かった。

協議の柱及び協議概要

協議のテーマ「主体的に学ぼうとする児童を育てるための工夫」

参加者それぞれの考えやこれまでの実践を記入した後、グループ協議を行った。

【協議の柱①】「児童の意欲が見られる顔や態度」

- ・ 普段書かない子、話さない子が話した時。
- ・ 全員顔が上がっている。前のめりの時。反対に顔が下がっていても意欲があるときがある。
- ・ 課題をたくさん見つけてくる。試行錯誤している。身振り手振り。

【協議の柱②】

「児童の意欲を高めるための手立て導入・展開・終末の各場面における実践について」

〈導入〉

- ・ 教師出演の動画。 ・ 学年の先生方に短歌を作ってもらい誰の短歌かを当てる。

〈展開〉

- ・ 学校教育向けの動画、教材コンテンツの「Qワードおぼえうた」でQワードを教えてどの場面でも使えるようにする。

〈終末〉

- ・ ちいちゃんのかげおくりで「ちいちゃんがうばわれなかったものはなんだったのだろう」という問いを投げかける。

まとめ概要

実践を次の授業改善につなげるための3つの視点が示された。

1つ目は、児童が「何のために学ぶのか」を実感できる必然性をつくることである。1年生のためにおすすめの本を決めるという明確な目的が、児童の主体的な学びを生み出していた。

2つ目は、学びを支える「3つのR」である。役割（ロール）を明確にすること、活動のルールを設定すること、相手意識や人との関係性（リレーション）を大切にすることで、安心して話し合いに参加できる環境を整えていた。

3つ目は、授業で身に付けた力を日常生活につなげることである。朝の会や休み時間などで見られる児童の小さな変化を教師が見取り、認めることが、自信や安心感を育み、持続的な学びにつながるとされた。今回の実践のように、ICTや多様な手立てを活用するだけでなく、児童の主体性を引き出し、意欲を継続させる工夫が重要である。